

村を助けた八竜神

はちりゅうじん

筑西市

昔、五所村の山崎（現在の筑西市）は、このあたりで指折りの豊かな村でした。

ところが、ある年、雨がまったく降らず田んぼや畑がカラカラに乾き、村人たちは頭を悩ませていました。すると、年寄りが言い出した。「氏神様である五所明神の北の沼には、八つの頭を持つ八竜神が昔から住んでいると聞いたことがあるぞ。一度、みんなでお願ひしてみよう」そこで、村人たちがそろって五所明神にお参りに行き、沼のまわりで太鼓を叩きながら「八竜神さま、どうか雨を降らせてください。お願いします。」と雨乞いの祈り続けました。

沼の底でこの太鼓を聞いていた八竜神は、村人たちを気の毒に
 思い、なんとかしてやろうと八つの頭を振りたてて沼から飛び出
 し、そのまま南の空へ飛んでいきました。しばらくすると、竜神はた
 くさんの水をたたえた大宝沼(今の下妻市あたり)を見つけました。



竜神は八つの頭を沼に突つ込むと、お腹いっぱい水を飲み込み、重たいお腹を抱えて再び飛びたちました。ところが、沼の守り神は、水がなくなつたことに気づくと、「おれの沼の水を空つぽになるまで盗んだやつは、どこのどいつだ」と怒つて弓矢を手しに追いかけてきました。八竜神はお腹が重くていつものように飛べません。守り神の放つた一の矢は、八竜神の片方の耳に当たりました。それでも痛みに耐えながら村を目指して飛び続けた竜神は、やつと思ひて村の上空にたどり着くと、水を村中の田畑に吐き出しました。急に降つてきた雨に村人たちは大喜び、空の八竜神に向かつて手を合わせました。

しかし、守り神は、まだ竜神を許していませんでした。二の矢を放つと、今度は竜神の尻尾に当たりました。痛手を負った竜神は、とうとう飛び続けることができず、力尽きて空から落ちてしまいました。村人たちは傷ついた竜神を必死に看病しましたが、目覚めることはありませんでした。

そして、村人たちは村を救ってくれた八竜神さまへの感謝の気持ちから社を建てて祀り、ありがたさをいつまでも語り継いだということです。

〔参考文献〕茨城県の民話／茨城の妖怪図鑑 中沢健著 山口敦太郎監修

〔参考文献〕茨城県の民話／茨城の妖怪図鑑（中沢健著、山口敏太郎監修）
※掲載事項には諸説あります。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>